

# 青森港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども青森港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、青森港等の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 地域の生活・経済を下支えする青森港の整備

青森港は、本州・北海道間の物流の要であるとともに、LPガスや石油製品の受け入れ等を通じて市民生活や地域経済を下支えています。また、大規模災害時は、緊急物資の受け入れ拠点としての機能を有しています。  
現在は、建設から30年以上経過し、老朽化した施設の改良を実施しています。今後の事業では、防波堤の撤去材を再利用する予定です。

**【目標】対策済み延長 2022年度:470m→2028年度:793m**



上部コンクリートのひび割れ



老朽化対策後



## みなとの理解を深める見学会の実施

青森港湾事務所では、港の役割や重要性を知って頂き、港に関心を持って頂くために、子どもから大人まで、幅広い年代の方々を対象とした「みなと見学会」を無料で実施しております。  
見学会では、青森港の歴史や市民生活との関わりなどをわかりやすく説明し、港湾業務艇「つがる」により海上から青森港を見学します。

**【目標】実施回数 2022年度:1回/年 → 2030年度:8回/年**



座学による港湾の説明



港湾業務艇による港内見学



## みなとの賑わいづくりの支援

青森市街地に隣接した臨海部は、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸や青い海公園などがあり、様々なイベントの開催や散策に利用される親水空間です。2021年7月には、青森駅から徒歩約2分の場所に、日本一駅に近いビーチとして「あおり駅前ビーチ(A-BEACH)」が完成し、エリア全体のさらなる賑わいが期待されています。青森港湾事務所では、みなとの賑わいづくりの支援も行っています。

**【目標】支援に関わった職員の割合 2022年度:75%→2030年度:100%**



青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸



あおり駅前ビーチ(A-BEACH)

# 八戸港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども八戸港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGsの達成に貢献するとともに、八戸港及びむつ小川原港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

**7** エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに **9** 産業と技術革新の  
激進をつくらう

## 北東北や道東のエネルギー供給等を支える港湾整備

八戸港には、北東北や北海道道東へLNGを供給する工場や、北東北の畜産業へ飼料を供給する工場等が立地しています。LNGや飼料等は、大型貨物船による一括大量輸送により、海上輸送コストを低減することが可能となっています。

八戸港湾・空港整備事務所では、大型貨物船が安全に八戸港を利用することができるよう、航路・泊地を所定の水深を確保するための浚渫(しゅんせつ)工事等を実施しています。

**【目標2022年度:大型貨物船の利用→2030年度:大型貨物船の利用継続】**



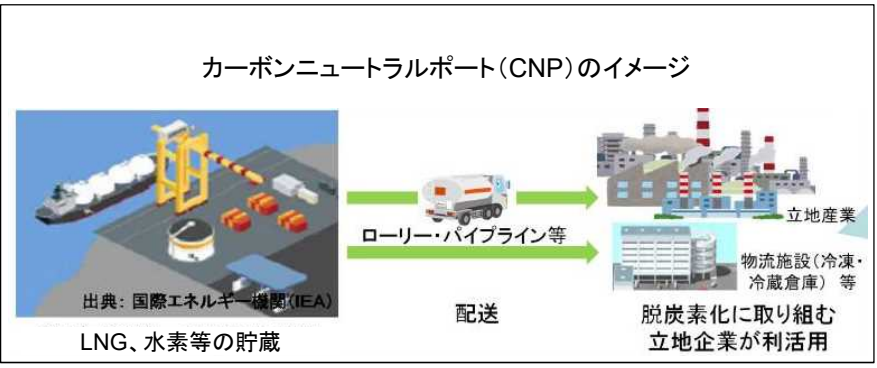
**7** エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに **9** 産業と技術革新の  
激進をつくらう **17** パートナーシップで  
目標を達成しよう

## カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

八戸港湾・空港整備事務所では、産業拠点である八戸港において、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じた「カーボンニュートラルポート(CNP)」を形成し、我が国全体の脱炭素化社会の実現に貢献していくこととしています。

CNP形成計画の策定に向け、青森県が設置する「八戸港CNP形成協議会(仮称)」に参画し、青森県と連携してCNP形成に関する検討を進めて参ります。

**【目標2022年度:CNP形成計画未策定→2023年度:CNP形成計画策定】**



**4** 質の高い教育を  
みんなに **8** 働きがいも  
経済成長も

## 総合学習(座学、現場見学)・出前講座の実施

八戸港湾・空港整備事務所では、『みなと』の役割や重要性・魅力について理解していただくことを目的とし、八戸港の総合学習を開催しています。総合学習では、『みなと』の基礎知識を学んでもらうとともに、港湾業務艇『ほととぎす』に乗船し、海の上から『みなと』の魅力をお伝えしています。また、むつ小川原港を含め、出前講座の実施要請にも対応可能しています。

**【目標2022年度:総合学習4回、参加人数64人(見込み)→2030年度:総合学習10回、参加人数150人】**



# 釜石港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども釜石港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、岩手県重要港湾の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

**現場見学会・総合学習・出前講座の実施**

【目標】2022年度:5回/年 → 2030年度:10回/年

釜石港湾事務所では、国が行っている工事や港の役割等について広く知っていただくために、港の現場見学や出前講座を無料で行っています。普段は見聞きする機会の少ない港について、港がどのような場所でどのように皆さんの生活に関わっているのか、どういう工事をしているのか、どのような効果があるのか、対象となる見学者毎に内容を工夫して、わかりやすく説明をさせていただきます。申し込みは事前に(3週間前までに)ご連絡をお願い致します。



小学生を対象とした講義の様子



地元高校生による現場見学会の様子

**久慈港湾口防波堤の整備**

【目標】2022年度:2,856m → 2028年度:3,800m

三陸沿岸地域は、これまで何度も大規模な津波被害を受けており、多くの人命や財産が失われています。久慈港においては、津波の被害から人命や財産を守り、地域住民の安全・安心な生活を確保すること、また港内の静穏度向上により港湾利用船舶の安全確保と沖合航行船舶の海難事故の減少を図ることを目的に、平成2年から湾口防波堤整備を行っています。防波堤が完成することで、津波浸水区域の縮小や浸水深の低減になり、防潮堤高も抑制できることから市街地の景観確保やコスト縮減にも繋がります。

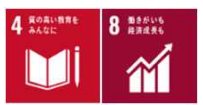


整備中の湾口防波堤全景



ケーソンの据付工事の様子

私ども塩釜港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、仙台塩釜港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 「みなと見学会」と「みなと探検隊」の実施

塩釜港湾・空港整備事務所では、地域の学校の校外学習や地域の方々に、みなとの役割や当事務所で実施している現場を紹介するため、「みなと見学会」を開催しています。

また、夏休みには小中学生の親子を対象に普段立ち入ることのない港周辺の工場内の見学やフェリーの船内見学など、みなとの色々を発見して頂くため、「みなと探検隊」を実施しています。

※「みなと見学会」の事前の申し込み(3週間前までに)、「みなと探検隊」は当事務所HP、地元広報誌にて申し込みの案内をしております。



みなと探検隊での工場見学



みなと見学会に参加した小学生

【目標】 みなと見学会;2022年度:260人 → 2027年度:500人

【目標】 みなと探検隊;2022年度:29人/夏・回 → 2027年度:60人/夏・回



## 石巻港区 雲雀野地区防波堤(南)の整備

仙台塩釜港石巻港区は、港の背後に立地する国内有数の企業の原材料を輸入する港として発展してきた。このため、雲雀野地区岸壁に接岸する船舶の安全な荷役や停泊が出来るよう昭和58年度より防波堤(2,280m)の整備を行っております。

現在、2,190mまでの整備が終了しており、残り90mと上部コンクリート等の整備を進めることとしております。

今後は更なる物流基盤の整備や物流効率化に向け、新たな岸壁の整備や防波堤(南)の更なる延伸を検討して参ります。



防波堤の整備状況



防波堤計画と対象施設

【目標】 2022年度2,190m→2025年度2,280m(概成)



## 仙台港区 向洋地区岸壁(-14m)の整備

仙台塩釜港仙台港区においては、コンテナ貨物量の増加に伴い、コンテナ船の沖待ちやターミナル内の非効率な荷役の解消を図るため、平成29年度より岸壁(-14m)や前面泊地等の整備を実施しております。

整備の効果として、コンテナ船の滞船の解消、効率的なコンテナ荷さばきが可能となることで、安定的な荷役・物流網の機能が確保され、地域経済の持続的な発展及び利用企業のサプライチェーンの強靱化、さらには、当該岸壁は耐震化を有していることから、大規模地震が発生した際の海上物流や緊急物資輸送の確保も期待されます。



【目標】 2021年度:滞船回数100回 → 2025年度:滞船回数0回

# 秋田港湾事務所におけるSDGs達成に資する取組について

秋田港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、秋田県重要港湾の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 洋上風車の建設基地

秋田港、能代港は、海洋再生可能エネルギー発電設備等取扱埠頭を有する基地港湾として、令和2年9月に日本で初めて指定されました。

秋田港は、大型風車の設置・維持管理に必要な地耐力強化等の工事が行われ、令和2年度に整備が完了し、現在、秋田港、能代港の港湾区域に設置する風車資器材の積込・積出・仮組立などの作業が行われています。また、能代港は、地耐力を強化した岸壁の整備を行っています。(秋田港:4.2MW×13基、能代港:4.2MW×20基)

今後、秋田港、能代港においては、民間投資を活用した一般海域の風車建設部材等の積出基地としての利用が予定されています。また、洋上風力の点検・メンテナンス作業等、新たな産業への地元企業の参入や関連産業への経済波及効果が期待されます。



秋田港飯島地区風車仮組立状況



能代港岸壁整備状況

【目標】(秋田港)2019年度 → 2020年度:1.8ha(完成)・・・運転開始予定時期:秋田港・能代港の湾区域内(2022.12)、由利本荘市沖(2030.12)  
 (能代港)2020年度 → 2023年度:1.8ha(完成)・・・運転開始予定時期:能代市、三種町、男鹿市沖(2028.12)



## 秋田港 防波堤の整備

秋田港は、全世界とつながる国際海上コンテナ定期航路、苫小牧、新潟、敦賀を結ぶフェリー航路の就航や背後企業の生産活動を支える人流・物流拠点として、さらなる安全で安心した港湾の利用を目指し、全力で防波堤の整備に取り組んでいます。

また、秋田県沖にGPS波浪計を配置し、港湾整備に必要な沖合の波浪情報を観測しており、地震発生時には沖合の津波情報も観測することが可能であることから、港湾を含む沿岸域での津波への迅速な対応にも活用されています。

【目標】2022年度:1,239m → 2026年度:1,400m(完成)



秋田港全景



工事状況(ケーソン据付)



## 現場見学会・総合学習・出前講座の実施

「行政の透明性向上」と「国民のみなさんとの対話を重視したコミュニケーション型行政の推進」のため、そして国土交通事業や施策についてもっとみなさんに知っていただくとともに、みなさんのご意見やナマの声を聞かさせていただくための場として、「現場見学会」、「総合学習」、「出前講座」を行っています。

【目標】2021年度:5回/年 → 継続して実施



現場見学会の様子



総合学習の様子

# 酒田港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども酒田港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献し、地域の一層の発展を図って参ります。



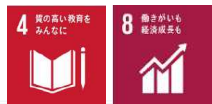
## 酒田港カーボンニュートラルポ-ト形成への取組

【目標】2023年度 CNP形成計画策定

港湾機能の高度化によりCNPを形成し脱炭素化社会の実現に貢献するため、国、港湾管理者、市、企業等で構成する「酒田港カーボンニュートラルポ-ト(CNP)検討会」を開催し、検討を進めています。脱炭素社会の実現に向けて、各構成員の取組みや問題意識を共有し、更に、港湾における水素やアンモニアの利活用に向けての将来方策案を関係者ととも議論しています。



酒田港CNP検討会の様子(R3.12.24)



## 現場見学会・総合学習・出前講座の実施

【目標】2021年度8回 → 2030年度16回

酒田港湾事務所では、国が行う港の工事や役割等について知って頂くために、港湾業務艇による海上からの港内見学や、工事現場の見学、展望台などでの酒田港の説明をしています。

また、地元の高校生などを対象に「出前講座」を実施し、港の役割・機能、港に関する仕事の魅力などを紹介をしています。



港内見学・工事現場見学の様子(R4.5.23)



出前講座の様子(R4.2.25)



## みなとオアシスでの取組

【目標】2021年度1回 → 2030年度4回

酒田港湾事務所では、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化の為、「みなとオアシスマつり」や「海のマルシェ」など、みなとオアシスでのイベントにも積極的に参加および協力をしています。

このような取組を通じて、みなとを中心としたまちづくりにも貢献していきます。



みなとオアシスマつりの様子



海のマルシェの様子(R3.10.16)

# 酒田港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども酒田港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献し、地域の一層の発展を図って参ります。

## 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 13 気候変動に具体的な対策を **北港地区 防波堤(北)(第二)の整備**

【目標】 2021年度1,380m → 2028年度1,560m(供用)

酒田港は山形県唯一の重要港湾であり、山形県の経済と暮らしを支える物流拠点として、地域経済を牽引する役割を担っています。

港内静穏度の向上による物流機能の強化や、航行船舶の海難防止等を目的として、防波堤の整備を行っております。



防波堤(北)(第二)



国際ターミナル(高砂ふ頭)

## 4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も **NPO等と共に、みなとを盛り上げる施策を実施**

【目標】 2021年度0回 → 2030年度3回

酒田港湾事務所では、NPO法人である「酒田港女みなと会議」を始めとする各団体と共に酒田港の整備や利用について、意見交換や港湾振興・県民への情報発信に関する事業を行い、魅力あるみなとづくりに寄与しています。

過去には「大浜ビッグビーチフェスタ」等を開催しており、その際には当事務所も支援しております。



大浜ビッグビーチフェスタの様子

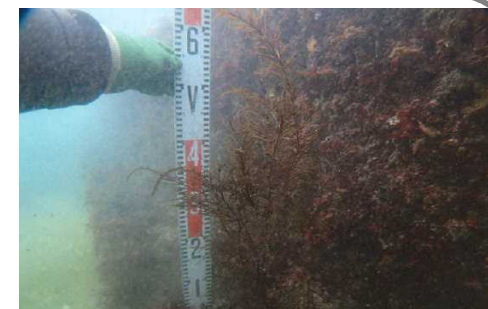
## 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを増そう 17 パートナーシップで目標を達成しよう **ブルーカーボンの取組**

【目標】 事業化に向けた民間企業の取組への継続支援

平成27年に大浜海岸離岸堤付近で藻の定着促進を目的に、アミノ酸を混ぜたコンクリートブロックを設置し、藻場造成効果を確認するという実証実験を行っています。藻場は順調に造成されCO2吸入源(ブルーカーボン)のみでなく、生物の繁殖地としても役割を担っています。今後も、企業を中心に実証実験が行われる予定であり、当事務所も引き続き、その取組を支援していきます。



ぼそう  
母藻をブロックに取り付けた様子



も  
藻が定着している様子



# 小名浜港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども小名浜港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、小名浜港・相馬港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 銅スラグの活用

小名浜港背後には、銅の精錬工場が立地しており、銅精錬で発生する副産物の銅スラグについて、防波堤工事で使用するブロックのコンクリート材料(骨材)として有効活用を行っております。現在、一部のコンクリートの使用となっておりますが、今後、さらなる活用を行っていきます。

**【目標】2022年度約60%(m3)ブロック活用 → 2030年度 全てのブロックに活用**



銅スラグ



ブロック製作状況



## 港の広報の普及促進

小名浜港では、国が行っている工事や港の役割について広く知っていただくために港の現場見学会や出前講座を無料で行っており、見学対象者にあわせて内容を工夫しわかりやすく説明しています。出前講座は無料です。申込みは事前に(3週間前まで)ご連絡をお願いします。

また、いわき市、相馬市の出前講座メニューからも申し込みできます。  
**【目標】 2022年度 港湾所在2自治体(実績) → 2030年度 沿岸10自治体(目標)**  
 (※自治体の出前講座メニューに登録数)



ケーソンヤードでの現場説明 遊覧船を活用した小名浜港親子見学会



## 小名浜港防波堤の整備

小名浜港において港内に避泊水域を確保し、荒天時における沖合航行船舶の減少を図るため、昭和62年から本港地区防波堤(沖)、平成6年から東港地区防波堤(第二沖)の防波堤延伸を令和10年の完成を目標に整備を進めています。

**【目標】2022年度防波堤延長(沖 2,359m, 第二沖 218m)**  
**→2028年防波堤完成(沖 2,540m, 第二沖 860m)**



整備中の防波堤(沖)及び防波堤(第二沖)全景



防波堤整備の様子(ケーソン据付)

私ども仙台港湾空港技術調査事務所では、以下の取組をはじめとする新技術の開発等を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、東北管内の港湾整備を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 資源(銅スラグ)の有効活用への取組

仙台港湾空港技術調査事務所では、資源を有効に活用する取り組みとして、地域の工場から発生する銅スラグ※をコンクリート細骨材として活用した消波ブロック(高比重)を用いた防波堤の基本設計を行っています。【活用例:相馬港、小名浜港】  
 今後も資源を有効活用した設計に取り組んでいきます。  
 ※銅の溶融製錬の際に得られる副産物



出典:小名浜製錬株式会社HP(銅スラグ)



消波ブロック(高比重)

【目標】銅スラグ活用量(消波ブロック) 2022年度 650m<sup>3</sup> → 2030年度 10,000m<sup>3</sup>



## 洋上風力発電の導入促進への取組

仙台港湾空港技術調査事務所では、洋上風力発電の導入促進への取り組みとして、基地港湾における大荷重の洋上風力部材に対応した新たな港湾施設改良(地耐力強化)の岸壁設計を行っています。  
 今後も主要プロジェクトへの技術支援に取り組んでいきます。



基礎構造部材のヤード使用状況



地盤改良工事(地耐力強化)

【目標】地耐力強化岸壁設計 2022年度 1施設(秋田港) → 2030年度 3施設



## 民間技術発表会の取組

仙台港湾空港技術調査事務所では、民間事業者が開発した新技術(NETIS等)を東北の港湾・空港整備に有効活用(マッチング)することを目的に、職員と民間事業者の方との意見交換の場として「民間技術発表会(通称: PAT)」を開催しています。  
 今後はオンライン形式(WEB)も活用し聴講参加者を広く募集します。



民間技術発表会の様子



- 名称: 技チョウくん (仙台技調マスコットキャラクター)
- ・羽の6つの模様は東北6県を表しています。
- ・6本の手足は技術支援を意味します。
- ・仙台技調の略称“技調(ぎちよう)”から命名。

※PAT: Presentation Assembly on Technological developments 【目標】参加者数 2022年度 50名 → 2030年度 150名